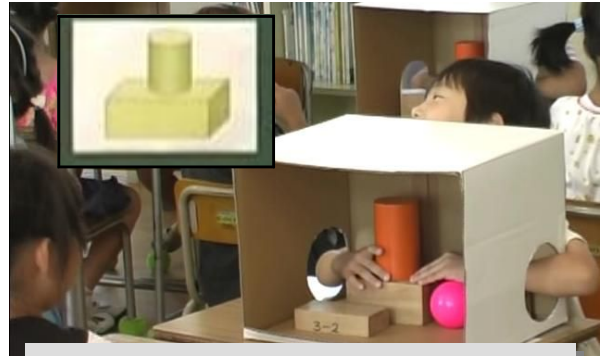


小学校 第1学年 単元「かたち あそび」
「形、位置、順番を活かして、合体の形を作ろう！」



「どんな形かな?」「よし!分かった!」



「……上が筒の形……これでいいかな?」

本実践における「活用」の考え方

1 ねらい

方向や位置を表す言葉を用いて立体図形の積み方や並べ方を表したり、立体図形の積み方や並べ方の順序や位置の言葉を聞いて、ブラックボックスの中で求める形を積んだり、探したりできるようにする。

2 どのような基礎的・基本的な知識や技能を活用するのか

- ・位置関係について（上下左右）
- ・順序（何番目）
- ・形の概念（球「ボールの形」・直方体「箱の形」・円柱「筒の形」） など

3 そのためにこのような具体的な支援が必要です

- ・形の名称やその位置関係・順序などを言葉で表現したり、それを聞いて形を作ったりする活動→《ブラックボックスを使った活動》
- ・お互いの意見の交流→《意見の発表》



発表する子どもとそれを聞く子ども



相手に言葉で説明する



お手本の形を見る

どんな形かを見てきて、相手に伝える

実践者からのお薦め

「筒の形は、右から3番目です!」「左から3番目とも言えます!」子どもたちからこんな言葉がドンドン飛び出してきました!形の学習の中で、上下左右の位置関係や○番目という順序の考え方も使っている子どもたちの姿です。

ブラックボックスでの形遊びで、触る活動と言語活動を仕組んだことが、これまでに身に付けた知識技能を自ら活用する子どもの姿につながりました。



単元指導計画(全3時間)

習得(2時間)	活用(1時間)
○立体図形(ボールの形・箱の形・筒の形) ・転がる形と積める形 ・それぞれの形の特性	○形・位置・順番を考えた合体の立体図形作り

指導の実際

学習活動	支援	児童の反応
1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師の間違った提示を見て、合体の順番を考えて同じ形を作ることを理解する。	○教師が上下逆の形を作って見せ、作るポイントとなる組み合わせの順番に気づかせる。 上と下が逆!	
2 形を作ろうゲーム1を行う。 (1) 片方の児童は二つの形の合体形を作り、もう片方の児童は、見守る。 (2) 役割を交代して行う。 (3) 説明の仕方を発表する。	○机が隣り同士の児童をペアとして、向かい合わせる。 ○作った順番を尋ねることで、位置や順序に関する言葉を引き出す。	
3 形を作ろうゲーム2を行う。 (1) 説明役の児童は、見本の形を見に行く。 (2) 説明役が言葉で説明するのを聞いて、ペアの児童は三つ、あるいは四つの形の合体形を作る。 (3) 説明の仕方を発表する。	○ブラックボックスの中を互いに見ないようにするために、机を元の通りに並べ直させる。 ○「右から○番目…」などの基点と順序を表す発言を取り上げ、戸惑っている児童にも気づかせる。	
4 先生が並べた形を説明する。 (1) 横に五つ並べた形 	○説明する際に基点を使う必然性を感じさせるために、使用する形を増やして提示する。 左に筒の形で、その横に……	
5 本時学習を振り返り、まとめる。	○児童の言葉でまとめられるように、必要な言葉を板書しておく。	